



メルマガ「GPN 地元国際通信 Vol.16」(2017/5/12 発行)

発行運営 一般社団法人グローバル・プロフェッショナル・ネットワーク

～地元国際！～地元企業を世界へいざなう国際専門家集団を形成するネットワーク！

[URL] <http://www.gpnjapan.com/> [代表 MAIL] info@gpnjapan.com

◎本メールマガジンは、GPN 会員、及び、名刺交換をさせて頂いた皆様に、当会からのお知らせや企業の海外進出・国際税務に関する最新情報をお届けするニュース配信です。

メールマガジンの解除、及び、配信アドレス変更をご希望の方は、本メールにご返信頂くか、GPN WEB サイトの「お問い合わせ」フォームよりご連絡下さい。⇒ <http://www.gpnjapan.com/>

◎ ご意見・ご感想などございましたら、下記までお願いします。⇒ info@gpnjapan.com

I N D E X

■ 社内言語

～海外進出企業 支援記「初めての海外進出 お手伝い <その 12>」

■ エール学園 理事長 長谷川 恵一 氏

～海外進出関連当事者インタビュー <その 6>

※ Back Number 過去に配信させて頂きましたメルマガを掲載しています。

下記よりご覧下さい。

<詳細> ⇒ <http://gpnjapan.com/gpntimes/index.html>

>>> 注目情報

■ 海外展開企業支援セミナー開催の御案内 (第7回)

～ ミャンマーの法制度と日本企業の進出状況

■ 「日本・ミャンマー空手道交流大会」の開催について

～ 日時:平成 29 年 5 月 20 日(土) 8 時 30 分開場、場所:城西国際大学体育館

>>> お知らせ

■ 会員募集中！！～会員種別・協会費について

■ 友人紹介制度のお知らせ～入会金免除！

■ 「海外展開&国際税務に関する課題・質問にお答えします！」

■ 第4回(定時)社員総会招集の御案内



GPN

Global Professional Network

■ 社内言語

～海外進出企業 支援記「初めての海外進出 お手伝い <その 12>」

苦勞した会社成立が終わり、ついに従業員の採用が始まり7名が決まりました。

ベトナム社の代表取締役はA社の社長が就任しましたが、本社より従業員が1人出向し、管理全般を統括します。そして、ベトナムビジネスのパートナーとして以前より交流のあった、甲さんが工場長に就任しました。甲さんは台湾人ですがベトナム社会に精通し、ベトナム語も堪能、ベトナム従業員の管理の中心を担います。しかし、日本語はできないため、甲さんとのコミュニケーションは英語となります。

ここで、日系ベトナム会社での社内言語をどうするかが、問題となるわけです。ベトナム人の第2外国語は英語です。したがって、社内の様々な文書、会議は何語とするかをきちんと決める必要があるのです。

ジェットロ「はじめてのベトナム進出 第2版」では、進出した中小企業10社の状況が示されています。5社について見てみると、

- AZ社** 日本とのテレビ会議 日本語 書類指示 ベトナム語 業務指示 英語・日本語・ベトナム語 帳票 英語・ベトナム語
- AI社** 会議 日本語(現地スタッフがベトナム語通訳) 業務指示 スタッフは日本語・英語 ワーカーはベトナム語 書類指示 日本語・ベトナム語 会計帳票 英語・ベトナム語
- ER社** 会議、書類、業務指示、帳票はベトナム語 技術指導は日本語(現地スタッフがベトナム語通訳)
- SV社** 会議、書類、業務指示、帳票ともにベトナム語、日本語で対応
重要な業務指示は日本語で行い、現地スタッフが通訳
- SE社** 会議は英語又は日本語(現地スタッフがベトナム語通訳)、書類は英語、業務指示は英語又は日本語(現地スタッフがベトナム語通訳) 帳票は英語・ベトナム語

微妙に各社が異なっています。現地に派遣された日本人管理者の語学能力によって違ってくるのでしょう。ベトナム語ができる日本人管理者を標準にすることはまずないと思われます。日本人管理者の英語能力によって、英語とベトナム語による体制が作れる水準が違ってくるのでしょう。なかなかそれも厳しいのが実情と思います。よって、日本語、英語、ベトナム語の3言語混在になっていくのでしょう。

私が2年前にホーチミンで訪問させていただいたメーカーでは、ベトナム従業員50名のうち、7名が日本語のできる人でした。日本語のできるベトナム従業員がある程度は必要でしょう。

最近訪問したミャンマーでの話ですが、日本親会社から日本語によるプログラミング指示書によって、システム開発をしています。日本語ができるプログラマーを雇用しているわけですが、最近日本語のできるプログラマーを採用するのも大変になってきているとのこと。プログラミングは基本的に英語の世界です。現地の日本人管理者のお話としては、これからは日本側が英語にならなくては行けないのではとのことでした。

グローバル化がますます進む世界、私たちは日本人も、英語ができなければ発展がない時代にならなっているのではないのでしょうか。

文責 野村 智夫

■ エール学園グループ 理事長 長谷川 恵一 氏

～海外進出関連当事者インタビュー <その6>

○コンビニなどでアルバイトをしている外国人留学生をよく見かけるようになりましたが、彼らは、帰国したり、日本に留まるなり、その後の途は様々であります。海外と日本を結ぶ有力な人材であることは、いうまでもありません。

更に最近では、各企業の海外進出の増加により、在学中からのインターンシップの活用による企業の海外向け戦力強化も始まっていると聞いています。

今回は、学校法人エール学園の長谷川理事長に外国人留学生の動向、活用などをお聞きしました。なお、学校法人エール学園は、日振日本語学校教育研究大会で2年連続の大賞受賞、3年連続日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先選ばれています。



エール学園 理事長
長谷川 恵一 氏

大阪府出身	昭和 22 年 3 月 生 れ
昭和 44 年	同志社大学工学部卒
昭和 51 年	学校法人エール学園創設
昭和 58 年	学校法人エール学園理事長に就任(現任)

公 職

・以前より多くの自治体・団体等で公職に就かれますが、多数ですので現任のみ記載させていただいています。

ミナミまち育てネットワーク 執行委員
認定NPO 法人 大阪NPO センター副代表理事
NPO法人 国際メンターシップ協会 代表理事
(一社)心学明誠舎 副理事長
(一社)大阪府先週学校各種学校連合会
常任理事
大阪商工会議所 二号議員



【学校法人エール学園】

〒556-0011 大阪市浪速区難波中 3-9-3

TEL 06-6647-0018 URL <https://www.ehle.ac.jp/>

I: エール学園様には、沢山の留学生の方がいらっしゃいますが、どこの方がどれくらい来られているかを教えていただけませんか。

長谷川: ベトナムの留学生が600名、中国が450名、後は、様々な国から、韓国、台湾、インドネシア、タイ、ネパールから数十名、ルーマニア、トルコ、フランス、アメリカから数名。全部で1,200名くらいが来ています。

I: 学校の構成は、どうなっています。

長谷川: 日本語学校と専門学校があり、人数は600、600。ほぼ同数です。

日本語学校は、日本語だけを勉強して、専門学校は、進学系と就職系に分かれていて進学系は英・数・国・理・社の授業をしています。就職系は、ビジネス系とコミュニケーション系の教育をしています。

I: 授業は、日本語で、ですか。

長谷川: 授業は、全部日本語でしています。

I: では、まず日本語学校に入られて日本語を学ばれ、その後、専門学校に進まれて進学・就職されてゆかれるのですね。

長谷川: ええ、ですから日本語学校は、海外から直接募集しています。専門学校は、日本語学校からと他の日本語学校から入ってきます。

I: 何年位勉強されるのでしょうか。

長谷川: 日本語学校は、2年、専門学校は1年もしくは2年です。

I: 最初の2年は日本語の学習で、次からは日本語だけで授業をするんですね。

長谷川: そうなのですが、東アジアの方はそれでいいのですが、アセアン系の方はその後も日本語教育をしなければついてこれないです。

I: 来たときは、日本語はある程度できているんですか。

長谷川: ほぼ0です。0からの出発です。

I: 0からでも東アジア系の方は、2年で大丈夫なのですね

長谷川: 東アジア系の方なら、半年くらいでコミュニケーションがとれる様になり、2年あれば、N1、N2というレベルになり、書いたり読んだりできるようになります。

I: ドロップアウトもあるんでしょうね。

長谷川: ドロップアウトは、あります。どうドロップアウトをとらえるかむつかしいのですが、例えば、大学院なんかは途中で抜けて行きますし、就職するケースもありますし、これらを除いて、データをとらえていないのですが、途中帰国という形なら5%もないのではないのでしょうか。

I: 途中で就職されるというケースは、多いのでしょうか。

長谷川: 今は、多くなっています。

I: その就職とは、就職課のようなところで、申し込まれた求人票などを閲覧して応募されるというような形でしょうか。

長谷川: 応募というより、我々は、インターシップを採用しています。多くの会社とのネットワークを作っ

ていまして、その中で、インターンシップに行かせた学生が、向うと気が合ってそのまま就職するということが多いです。大体70%くらいです。

また、できる方、いわゆるトップ層の方は、一般のリクナビなんかで自分でエントリーして就職先を見つけてきます。

I:自分で、リクナビですか。

長谷川:そういう授業もやっています。PCを使って、エントリーシートの書き方を教えたりしています。また、そこまでのレベルではない方々に、私達が企業紹介して就職するというパターンが多いです。

I:大学・大学院進学と就職の割合は、どれくらいですか。

長谷川:8割が進学、2割が就職ですね。

I:全部1,200人ですので250人位。こちらは、外国の方の雇用ということでは、かなり大きな供給源になっているのですね。どんな業種が多いのでしょうか。

長谷川:やはり、インバウンドの影響で、ホテル、旅行業などが一つ、もう一つは、海外展開組が多いので、製造業などで、我々は、メンターと呼んでいますが、いわゆる技能実習生の指導・教育をするケースも多いです。当校の学生は、高度人材ですので、実習生を指導する立場として求められます。

I:民間だけでなく、国の施策として海外からの実習生を受け入れる政府系機関もありますね。

長谷川:ああゆう実習生を受け入れるところは、協同組合を作るのですが、この組合にうちの生徒が就職することも多いです。最近では、政策もあり海外から技能実習生がたくさん来られますが、その方々を指導する中で、通訳という要素もあり、非常に需要は多いです。特に地方のニーズが多いです。

I:就職状況は、高いのですね。

長谷川:就職率は、実は高くないのです。エールは、100%ですが、全国の平均は30%なのです。正確には27%。安倍内閣は50%を目指していますが、私は、この前財界セミナーで発言させてもらったのですが、50%とは失礼な話ですよ。80%、90%にならなければ。高いお金を払って、頑張って勉強して、就職したいと思っているので、30%はないですよ。こちらで仕事したいという人達に。せめて80~90%であるべきでしょう。

I:それは、制度的な問題でしょうか。

長谷川:制度の問題というより経営者の感覚ですね。外国人を雇うことの怖さなんです。以外に保守的です。海外に進出しようとしているところは、取ろうとしています。国内で一緒にというのは、なかなか。

I:今のお話では、インバウンドで増えたとお聞きしましたが、上がって30%なんですか。

長谷川:上がって30なんです。

国の方も、努めているのですが、かみ合っていないんですよ。英語人材を受け入れようとしているんですが、日本の場合、英語ができて日本語ができなければ受け入れてくれない。

就職を探す場合、リクナビ、マイナビに頼るのですが、まず、日本語でエントリーシートを記載しなければならない。試験で適性検査もありますが、まず日本語で読みこまなければならないという点があります。

就職するには、先ほど言ったN1が必要ですが、東アジアは別ですが、アセアンの方には、無理です。ですので、うちの場合は、N2で就職できるようにしています。中にN3でも就職させています。だか

ら就職率100%なのです。ここまで面倒見ているから100%なんです。

I: 鳴り物入りは始まった看護師さんの場合も、日本語を読み取るという点で合格率が低いと言われているですね。

長谷川: 全部日本語の問題なんです。政府の人は、日本語を軽く考えています。日本語を完全マスターしようというのは、大変なことなんですから。

エールの場合は、日本語は無理だから、人間力を見てもらおうとしているんです。それならN3でもいいわとなるんです。

I: 日本語も慣れてゆくと何とかなるもんなんですよ。

もう一つ気付いてほしいのは、語学力だけでなく、彼らの感性なんです、提案力なんです。海外の物を売るとき、日本人だけの感性で売ったら、売れないのです。外国人の感性で売ったら外国人に売れるのです。

I: 外国の方の感性？

長谷川: この前南海鉄道に3人とももらったのですが、ずっとインターシップを受けてもらっていたのですが採ってもらえず、今回やっと採ってもらったのです。南海でさえ、こんなインバウンドな時代に、ずっと採らなかつたんです。

ラピート(関西空と大阪の中心地難波を結ぶ特急電車。)あるでしょう。あれは当初ガラガラだったんですが、うちのスタッフの提案で変わりました。魅力の発信が違っていたのですね。

海外からやってきて、満員電車の乗り換えるのより、500円払ってゆったり座ってゆく方がいいでしょう。せっかく海外旅行に来たのだからと現地の送り出しのところに提案したそうです。ネイティブの方がネイティブの方に提案すると非常にわかりやすい。

もう一つ言われてたことは、日本人の場合、提案するのにためらうことが、あるのですが、海外の方は、相手が偉い人であろうが言い切るんですね。

I: 前回は、日本人はなんで英語ができないかという話だったんですが、今回は、全く裏返しの話ですね。

日本語はだいぶ難しいですか。

長谷川: 非常に難しい。最少は、恐怖だそうです。電話を慣れてくれば取るんですが、最初はよけいに聞き取りにくく、ダメなようです。

I: まったく、我々が海外に出たときと同じなんですね。

長谷川: 企業実習では、それもあります。座学だけは、いけませんから。

I: 日本に慣れてもらうまで日本文化というか、いろいろフォローがあるんですね。

長谷川: 服装なんかも、来た頃は全くフリーというか、いろいろですが、その場に応じた服装を、ネクタイを締めて出席させる、そのような指導もしています。インターシップに参加してゆく中で身に着けてゆくんです。

I: 日常的に文化というか、日本の常識的な生き方を教えているんですね。

長谷川: インターンシップと言っても、にもいろいろあるので、うちは社会貢献型インターンシップというものです。これは1日とか3日とか1週間させるんですが、そこでいろんなことを学んでもらうのです。これがうちの基礎にあるものです。

なんぼいってもやらないものは、やらない。失敗して叱られたら、身に染みて態度が変わる。

I:実践的なオン・ザ・ジョブトレーニングですね。
長谷川:いろんなインターンシップをしていますよ。

I:インターンシップは、窓口は小さいように思うのですが。

長谷川:私たちも今後の日本企業は、海外展開なしでは生きていけないと思っています。これを克服してゆくには、多文化共生をしてゆく必要があると思います。そのには「違い」というものがありますね。この「違い」が私たちの生きてゆくところです。

ネットワークは、入っていただいた社長さんが、親しい社長さんに紹介され、また入ってもらう形で広がっています。

長谷川:30、40社でスタートしたのですが、今は230社くらい集まってくれます。

長谷川:GPNに参加している企業の方々も、この交流会に参加されるのもいいことですよ。



I:留学生の方々と会って、話して人間力を見極めるということですね。

長谷川:それに進出しようという企業の方は、既に進出している企業の方と会って色々話を聞くことができます。

I:ビジネスマッチングですね。

長谷川:今、銀行さんが、顧客サービスの一環として、顧客を誘ってくれています。お話を聞くとまず販路拡大、次に人材確保が狙いとおっしゃっていました。

I:実体験からのご紹介ですか。

長谷川:いつも言われるのは、全く海外の方を入れたことない企業に外国の方を入れると、最少は、戸惑うのですが、全く日本を好きで来た子なので、すごく必死なんです。日本の子たちは、一生懸命はかっこの悪いことのように思っているところもありますが、彼らは、必死なんです。その姿勢に心が打たれる。そうすると周りの人間がほって置けなくなり「社長、何々君頑張っているから、雇ってください」とか「忘年会に呼びましょう」とか。

I:経済的には、どうなんですか。

長谷川:本当に貧乏です。そりゃ、遠いところにきて、物価も違うし、大変ですよ。でも日本が好きだから、来るんです。

I:ビザは大変なんですか。

長谷川:就労ビザは、大変です。できる仕事は限定されます。例えば、美容師になりたいといってもそのビザはないんです。コックさんになりたいといってもこのビザも、基本的にはないんです。大きくいって通訳とか、もう一つは、政府の政策なんです。IT人材ってめちゃくちゃ緩和されているんです。IT人材が86万人に不足するという予想もあるので、IT人材は、OKなんです。

それ以外は、それぞれ学科の内容で専門士というものでなければならぬのです。例えば物造りが好きで製造業に就きたいと思っても、製造業、単純労働としてダメとするのが入管の考え方です。

I:日本で日本式の技術を取得して、母国に伝えてもらえば、日本式が世界に広がり、グローバルスタン

ダードになって行くのにと思えますけど。

長谷川:入管では、そうは考えていないようですね。生産人口が減ってくるので、安倍さんなんかは留学生を活用しようとしています、現場ではちょっとちぐはぐな感じはあります。

I:ベトナムが多いのは

長谷川:一つは、企業進出が多い。日本政府も力を入れているので、アニメだけでなく日本文化のよさが評価されているという側面もあります。インフラとしてベースにありますね。中国からチャイナプラスワンの流れもあり、一機にのベトナムへシフトしました。

I:我々にもお話が来るのは、ベトナムが多いです。

長谷川:そうだと思います。日本企業のベトナム進出に拍車がかかっていると思います。

ベトナムの日本語教育で日本語が第二外国語に入っています。

I:長谷川さんの方から、これから外国の方と一緒に仕事をしてゆこうとしている方に一言。

長谷川:僕は、いつも言っているのですが。その国に進出したいのだったらその国の人を雇うべきだと思います。そうするとその国の文化が、その人を通じて理解できる。そして、その人は日本の文化を理解してゆくのと同時に、周りの人はその国の文化を理解して行きます。こうしてこの企業の中に国際化が始まります。

そうした上で、海外進出を始める。その国の人を雇って理解してから進出したほうがスムーズにすぎますよと言いたい。海外進出して、それからその国の人を雇うというのが多いですが、逆ですよと言いたい。特に強調したいところです。

これだけ国際化、国際化と言われているのに、日本は、意外と開かれていないです。

I:経営者のマインドですね。

長谷川:エールはこれから何をしようかということですが、大阪に世界の優秀な人材を集めたいと思っています。

今向うのトップの大学と提携を始めています。ベトナム中心ですが、ハノイ貿易大学と提携して、去年実験的に一人送ってもらい就職がきまり、今度は、7人送ってもらいます。

I:海外の若い方と一緒に仕事をしていくうえで、我々が気づいていないようなことがあれば、教えていただけませんか。

長谷川:我々、よくJETROなどからこの商品が海外で売れるのかと相談されます。この前もサウジの方に、進出する会社から相談を受け学生に行って貰ったのですが、テストマーケティングをする前に学生に意見を聞くということです。これは、高級玉露、ワイン並みの値段の者ですが。

I:外国の方の感性といいますか、それでテストするということですね。直接意見を聞くということは大事なことです。

長谷川:せっかく日本にいらっしゃるのに。彼らも日本の方とししゃべりたがっていますし。

企業の方は、留学生は、ボランティアワークをするかなと思っているようなんですか、それは、結構応募するんです。企業さんは、無料で申し訳ないと思うんですが、留学生にとっては貴重な体験なんです。遠慮なく言ってきてほしい。通訳でも気軽に使ってほしいです。

彼らにとってもネットワークになるんです。

I:いいお話を聞きました。ぜひ、その時はよろしくお願いします。

○インタビューが終わって

好きで来られた留学生の方々、学校だけでなくもっと日本の実社会に触れたいと思われているようです。ここは、遠慮なくお願いして会いましょう、意見を聞きましょう。

想像したら分かります、自分が外国に留学していたら、もっともっと現地の方と接点を広げたい、もっともっとその国のことを理解したいと。

エール様、貴重な情報をありがとうございました。また、これをきっかけに竜が威勢の方々との接点をお願いするかと思いますが、どうぞ、よろしく申し上げます。

文責 長友 滋尊



海外展開企業支援セミナー開催の御案内 (第7回)

～ ミャンマーの法制度と日本企業の進出状況

● 開催概要

1. 日時 2017(平成29)年6月13日(火) 15:00～17:00
2. 会場 東京国際フォーラム ガラス棟会議室G502
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5-1 ☎ 03-5221-9000
3. 講師 TMI 総合法律事務所 弁護士 白石和泰 先生 / 弁護士 福田実主 先生
4. テーマ 「ミャンマーの法制度と日本企業の進出状況」
 <内容> 「最後のフロンティア」と呼ばれるミャンマー！ 2016年に政権交代を成し遂げ、経済成長率は7.2%、外国投資の承認額は94億米ドルに上り、過去最高を記録しました。ミャンマー進出を御検討されている皆様を対象として、ミャンマーにおける法制度(外国投資に関する規制、各種優遇措置等)、会計制度、税制一般、人事・雇用等について、解説します。
5. 参加費 (税込) 正会員 3,000円 準会員・賛助会員 5,000円 一般 10,000円

● 懇親会

1. 日時 同日 18:00～20:00
2. 場所 銀座 鮎忠 東京都中央区銀座6-9-4 ☎ 03-3571-2727
3. 参加費 7,000円(税込)

≪講師略歴≫

■ TMI総合法律事務所 パートナー／弁護士 白石和泰(Kazuyasu Shiraiishi) 先生



1996年 3月	早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
1998年	司法書士試験最終合格
2002年 4月	最高裁判所司法研修所入所
2003年 10月	第二東京弁護士会登録、TMI総合法律事務所勤務
2013年 6月	ワシントン大学ロースクール(知的財産権コース)卒業(LL.M.)
2013年 9月	シアトルのDorsey&Whitney LLP勤務
2013年 10月	シアトルのBracewell&Giuliani LLP勤務
2014年 7月	TMI総合法律事務所復帰、外務省経済局政策課(日本企業支援室)専門員
2016年 1月	パートナー就任(現任)

■ TMI総合法律事務所 弁護士 福田実主(Miyuki Fukuda) 先生



1999年 3月	立命館大学政策科学部政策科学科卒業
2005年 4月	最高裁判所司法研修所入所
2006年 10月	東京弁護士会登録、戸田総合法律事務所勤務、海事補佐人登録
2011年 4月	第一東京弁護士会登録、弁護士法人北浜法律事務所東京事務所勤務、早稲田大学海法研究所招聘研究員就任
2012年 3月	シカゴの増田・舟井・アイファート&ミッチェル法律事務所勤務
2012年 6月	弁護士法人北浜法律事務所復帰
2014年 5月	チューレーン大学ロースクール(LL.M. in Admiralty)卒業
2014年 6月	ニューオリンズのチャップフェ・マッコール法律事務所勤務
2014年 9月	シカゴの増田・舟井・アイファート&ミッチェル法律事務所勤務
2015年 8月	弁護士法人北浜法律事務所復帰
2016年 1月	TMI総合法律事務所勤務
2016年 4月	ヤンゴンオフィス駐在

【申込方法】 GPN WEB サイト よりお申し込み下さい。

⇒ <http://www.gpnjapan.com>

※ なお、お申し込み多数の場合は先着順(入金確認が出来た方順)とさせていただきます。

<申込方法> 「(1)エントリー」→「(2)参加費納入」の2ステップ！
 (1)エントリー GPN WEB サイトの TOP Page、左メニュー「資料請求・各種申請」をクリック。必要事項を記載の上、「2. ご用件」→「セミナー申込」を選択し参加人数を自由記入欄へ記載願います。
 *セミナー参加費用のお支払いは銀行口座振込のみとなります。
 (2)納入方法 次の口座へお振込み願います。
 <みずほ銀行> 銀座中央支店 (店番125) 普通 口座番号 1332491
 口座名義 シャ) グローバルプロフェッショナルネットワーク

主催 一般社団法人 グローバル・プロフェッショナル・ネットワーク

ー地元国際～地元企業を世界へいざなう、国際専門家集団を形成するネットワーク！

<GPN サポートデスク 住所> 〒272-0034 千葉県市川市市川 1-12-22 市川サークルビル 6F

TEL 047-712-5531 FAX 047-712-5532 E-Mail(代表) info@gpnjapan.com URL <http://www.gpnjapan.com>



GPN

Global Professional Network

「日本・ミャンマー空手道交流大会」の開催について

各団体責任者各位

日本・ミャンマー空手道交流大会
大会名誉会長 志賀 直温(東金市長)
大会会長 嶋 輝幸

日頃、当連盟の運営に御尽力賜り、深く感謝申し上げます。

さて、「日本・ミャンマー空手道交流大会」を下記のとおり開催することとなりましたので、御案内申し上げます。つきましては、役員、保護者の御協力、選手の御参加に特段の御配意をお願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成29年5月20日(土)

8時30分	開場、8時40分	受付
9時00分	開会式	
9時30分	競技開始	
13時00分	組手技術セミナー	
16時00分	閉会式	
2. 場 所 城西国際大学 体育館 東金市求名1番地
3. 目 的 「空手道を通じ、日本とミャンマーの国際親善と空手道技術の向上を目的とする」
4. 競技方法 (財)全日本空手連盟競技規定・審判規定を準用し、本大会申合せ事項により実施します。
5. 組手競技

(1)小学生1・2年生女子	(6)小学生5・6年生女子	(11)中学生2・3年生男子
(2)小学生1・2年生男子	(7)小学生5年生男子	(12)高校生女子
(3)小学生3・4年生女子	(8)小学生6年生男子	(13)高校生男子
(4)小学生3年生男子	(9)中学生女子	
(5)小学生4年生男子	(10)中学生1年生男子	

※ 参加人員により、セミナーのみの場合あり
6. 競技技術セミナー

講師 千葉県ジュニア強化責任者	張ヶ谷 昇 先生
(千葉県空手道連盟副理事長)	
千葉県競技力向上委員長	馬場 秀和 先生
拓殖大学空手道監督	谷山 卓也 先生
日本ナショナルチーム指定強化選手	清和田雅美 先生
7. 参加費 2,000円(一律同額)
8. 申込み **【振込先】**京葉銀行 店番号481 口座番号7401591 名義 齋藤政信
参加申込書(別紙1)により、4月25日(火)までに、郵送またはメールで事務局へ申込み願います。
9. 保 険 選手は、スポーツ安全保険に各自加入願います。
10. 審判協力 審判員として、御協力いただける先生は、参加申込みまとめ(別紙2)に記載をお願いいたします。
11. 協力員 コート協力員等で、御協力いただける方は、参加申込みまとめ(別紙2)に記載をお願いいたします。
12. 問合せ 佐野 義彰(山武郡空手道連盟副理事長) TEL 080-5644-6855

【申込先】事務局 担当 齋藤 政信(山武郡市空手道連盟事務局)

〒283-0836 東金市極楽寺57-1 TEL 090-7276-9001

E-mail masanobu.saitou@sanbukouiki-chiba.jp

>>> お知らせ

■ 会員募集中！！～会員種別・協会費について

○当会は2014年6月に、新たな使命を担う税理士、公認会計士などの士業者が中心となって設立されました。国際専門家集団を形成するネットワークを構築し、地元中小企業を世界へ誘い、我が国の経済の発展に貢献するための事業を行っています。会員の皆様から御支援頂く会費は、海外へ展開していこうとするSAMURAI日本の企業および企業戦士の方々への支援活動に活用させていただきます。

何卒、本事業の趣旨に御賛同頂き、当会へ御参加下さいますよう、お願い申し上げます。

【会員種別・協会費】

(1) 正会員 ・社員総会に参加し、議決権を有する方。GPNの活動に関し、財務的支援、及び、運営に関して関与する方。

<費用> 入会金 10,000円 会費 5,000円/月 (60,000円/年)

(2) 準会員 ・下記の会員の権利を有する方。

<費用> 入会金 5,000円 会費 1,500円/月 (18,000円/年)

(3) 賛助会員 ・当法人の目的に賛同し、財政的支援を提供する方。

<1口> 10,000円

個人の方 1口以上
団体・企業の方 10口以上

※入会金については、会員となっている者からの推薦を受けた場合には免除されます。

【会員の皆様へのサービス内容】

会員の権利	会員の種別	正会員	準会員	賛助会員
(1) 定款第12条に定める議決権の行使		○	—	—
(2) GPNが運営する外部への発信媒体での紹介 ex: WEBサイト・メルマガでの掲載		○	○	—
(3) GPNの活動に関するサポートの收受 ex: 海外展開企業への支援(個別相談・国外パートナー紹介等)		○	○	○
(4) GPNが主催する事業および催事への参加 ex: 海外視察研修ツアー、講演会・セミナー優先割引受講、 会員誌・メールマガジン購読		○	○	○

【注意】①入会を申請する者は、定款にしたがい、所定の入会申請の手続き、及び、指定決済機関による入金の確認をもって行うものとします。

②契約期間は、入会手続きが完了した翌日より起算して1年間とします。但し、期間満了日の2ヶ月前迄に、会員より所定の退会申込書が提出され、経営執行委員会が退会の申し入れを受理した場合を除き、契約期間は1年間延長され、その後も同様とします。

③契約期間中に中途退会する場合は、その理由の如何を問わず、払い込まれた会費等の返金は行わないものとします。また、協会費の未払分、及び、残債務全額を支払うものとします。

④会員の資格喪失、その他の詳細は定款、及び、利用規約に記載されています。必ず、ご一読下さい。

<お問合せ> ⇒ <http://www.gpnjapan.com/>

■ 友人紹介制度のお知らせ～入会金免除！

○皆様のまわりに、海外進出をご計画の経営者様、又は、海外展開案件の相談を受けている税理士・公認会計士等の士業者の方はいらっしゃいませんか？ ご紹介頂いた方が GPN に入会された場合、入会金免除の上、GPN が懇切丁寧にバックアップさせていただきます。

次の事項をご記入の上、本メールにご返信頂くか、GPN WEB サイト「お問合せ」フォームより、ご連絡頂きたいようお願い申し上げます。

<友人紹介>

- 組織・団体名称
- 姓 名
- ご住所
- 電話番号
- E-Mail

<お問合せ> ⇒ <http://www.gpnjapan.com/>

■ 「海外展開&国際税務に関する課題・質問にお答えします！」

○GPNは中小専門家事務所の国際社会での競争力を強化し、既存、及び、潜在クライアントの国際化のサポートを行う組織を、日本の中小専門家事務所と共同して、日系専門家事務所のネットワークです。

<募集>現在、海外進出をご計画されている企業の顧問をされていらっしゃる税理士、公認会計士の皆様の課題や国際税務に関する質問にお答えします。お気軽に、下記までお問合せ下さい。

<お問合せ> ⇒ <http://www.gpnjapan.com/>

■ 第4回(定時)社員総会招集の御案内

○下記要領にて、当法人の第4回(定時)社員総会を開催致しますので、御多忙のところ誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、御出席下さいますようお願い申し上げます。また、同日、海外進出企業支援セミナー・懇親会も開催致します。合わせて、御参加下さいますようお願い申し上げます。

◇ 開催概要

1. 日 時 平成 29 年 6 月 13 日(火) 14:00～14:45
2. 会 場 東京国際フォーラム ガラス棟会議室G502
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5-1 TEL 03-5221-9000

※正会員の皆様へは、別途、「第4回(定時)社員総会招集の御案内」をお送りします。ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

発行運営団体のご案内

○本メルマガは、個人情報保護ポリシーに基づいて配信されています。

詳しくは下記のページをご参照ください。

・プライバシーポリシー ⇒ <http://gpnjapan.com/notice/policy.html>

○本メールは日本国内向けの情報です。本メールの掲載情報や資料の掲載には、適宜、更新、追加をする等、細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の内容は、更新時期などにより変化する事があり、一切保証するものではありません。

○本メールの再配信、記載内容の無断転載・転用・編集はご遠慮ください。

○ご意見・ご感想などございましたら、下記までお願いします。

<GPN カスタマーセンター／メールサービスデスク>

〒272-0034 千葉県市川市市川 1-12-22 市川サークルビル 6 階

[TEL] 047-712-5531 [FAX] 047-712-5532 [代表 E-Mail] info@gpnjapan.com

[Mail Desk] gpn@gpnjapan.com [URL] <http://www.gpnjapan.com>

営業時間：月～金(10:00～18:00、祝日・年末年始を除く)

<発行運営>

一般社団法人グローバル・プロフェッショナル・ネットワーク

～ 地元国際！－地元企業を世界へいざなう国際専門家集団を形成するネットワーク！！

Copyright 2016 Global Professional Network All Rights Reserved.

